



由利地域振興局農林部農業振興普及課 TEL:22-8354  
 NOSAI由利 由利農業共済組合 TEL:24-3301  
 JA秋田しんせい 営農生活部 米穀課 TEL:27-1601  
 JA秋田しんせい 営農センター

# 中干し後の管理について

7月に入り、中干しを実施する圃場が散見されるようになりました。間もなく稲の生育ステージは幼穂形成期へと向かいます。幼穂形成期はいわゆる子供の穂を形成する時期となり、穂を成長させるために水が必要となります。圃場間で差はありますが7月中旬頃が一般的に幼穂形成期となりますのでこの頃までには中干しを終了して下さい。また、中干し後にスムーズに間断かん水へ移れるように計画的培土作業をしましょう。

**過度または長期間の中干しは…** ➡ **根の伸長の停滞・水分ストレスによる稲体の活力低下  
根が切れ養分の吸収ができないことに！！**

## ◆間断かん水

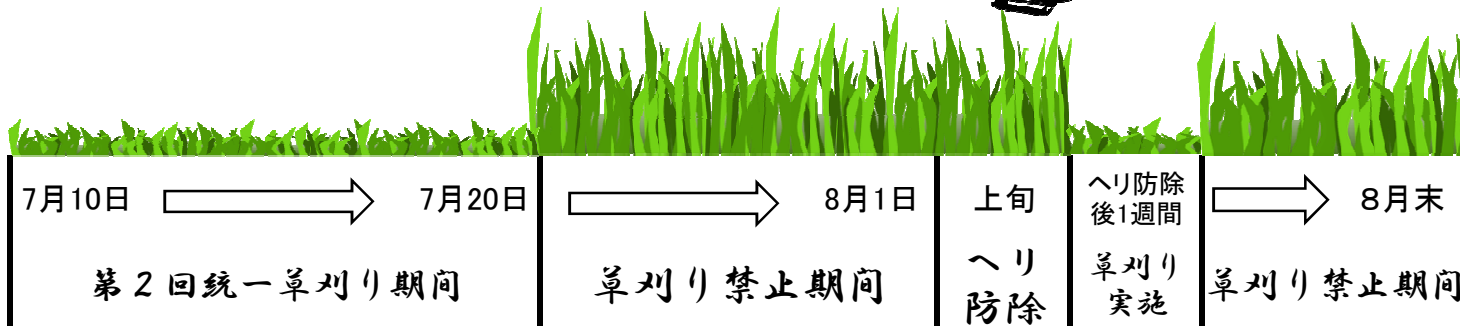
- 圃場間の減水深により差はありますが2湛3落(2日湛水状態、3日落水状態)が目安となります。
- 土壤に酸素と水分を交互に供給することで稲体の活力を維持します。
- 根の伸長を促し、追肥の肥料吸収効率を向上させます。

## ◆第二回統一草刈り期間について

第2回統一草刈り期間  
7月10日～20日

草刈り禁止期間  
7月21日～8月末日

★草刈り期間スケジュール



## ◆カメムシ防除について

秋田県病害虫防除所の発生予察によると今年の斑点米カメムシ類の発生は早く、発生量も多いとされています。特に近年はアカスジカスミカメが増殖傾向になっています。斑点米の被害を抑制するため、草刈り(耕種的防除)を徹底し、カメムシが圃場に侵入しないようにしましょう。また草刈り禁止期間であってもヘリ防除後1週間は草刈りを実施して下さい。適正な防除でカメムシの生育密度を低下させましょう！！

アカスジカスミカメ



## ◆追肥について

今年は基肥量の増加で初期生育の確保に取り組むということで施肥量を増やして頂いた方も多く、稲は順調に生育している状況です。刈取時の結果が良くなるよう、JAで実施する穂肥診断の結果を基に適正な追肥を実施しましょう。

### ★追肥の種類（10aあたり）

窒素成分量/肥料名	追肥化成545 (15-4-15)	追肥専用しんせい535 (15-3-15)	尿素複合212 (20-10-20)
	現物量	現物量	現物量
窒素成分量 0.8kg	5.3kg	5.3kg	4.0kg
窒素成分量 1.0kg	6.7kg	6.7kg	5.0kg
窒素成分量 1.2kg	8.0kg	8.0kg	6.0kg
窒素成分量 1.5kg	10.0kg	10.0kg	7.5kg
特徴	有機質成分は入っておらず化成のみの低コスト穂肥肥料。	アンモニア態窒素が主成分で持続せいのある尿素も入った追肥専用肥料。	尿素主体の窒素で肥効の長い追肥専用肥料。

### ★追肥の目安について

下記の表は品種ごとの追肥の目安になります。ただし、圃場間での環境や生育状況が違いますのであくまでも目安として参考にしてください。

#### 「あきたこまち」

葉色 SPAD値	草丈 (cm)	生育量	茎数 (本/㎡)	幼穂形成期 11~11.5葉期	減数分裂期 12.5~12.8葉期
40~42 (スケール5番前後)	55~65	不足	~480	N(窒素成分) 1.2kg以内	N(窒素成分) 1.0~1.5kg
		やや不足	480~520		
		目標値	520~540		
		やや過剰	540~570		
		過剰	570~	なし~0.5kg以内	なし~1.0kg以内

#### 「つぶぞろい」

葉色 SPAD値	草丈 (cm)	生育量	茎数 (本/㎡)	幼穂形成期 11~11.4葉期	減数分裂期 12.2~12.6葉期
36~40 (スケール5番前後)	55~65	不足	~490	N(窒素成分) 1.2kg以内	N(窒素成分) 1.0~1.5kg
		やや不足	490~510		
		目標値	510~530		
		やや過剰	530~540		
		過剰	540~	なし~0.5kg以内	なし~1.0kg以内

#### 「ひとめぼれ」

葉色 SPAD値	草丈 (cm)	生育量	茎数 (本/㎡)	幼穂形成期 11~11.5葉期	減数分裂期 12.5~12.8葉期
36~40 (スケール5番前後)	55~65	不足	~510	N(窒素成分) 1.2kg以内	N(窒素成分) 1.0~1.5kg
		やや不足	510~550		
		目標値	550~570		
		やや過剰	570~600		
		過剰	600~	なし~0.5kg以内	なし~1.0kg以内

#### 「萌えみのり」

葉色 SPAD値	草丈 (cm)	生育量	茎数 (本/㎡)	幼穂形成期 11~11.4葉期	減数分裂期 12.2~12.6葉期
38~42 (スケール5番前後)	50~60	不足	~470	N(窒素成分) 1.2kg以内	N(窒素成分) 1.0~1.5kg
		やや不足	470~510		
		目標値	510~530		
		やや過剰	530~560		
		過剰	560~	なし~0.5kg以内	なし~1.0kg以内

### ●稲作メールマガジン

これから刈取にむけて管理が重要になっていきます。一方でこれからは台風の接近や極端な高温障害による生育への影響などが捨てきれない可能性としてあります。管理のことはもちろんですが、自然災害が発生した際の対処などの情報発信にも努めて参りますのでぜひご活用下さい。登録は右記のQRコードからできます。

